

## 1-2-9 県指定・赤田臥牛墓

〈県指定〉昭和31年2月24日

〈所有者〉赤田家

〈所在地〉愛宕町3174番地

大雄寺裏墓地

〈時代〉江戸時代（19世紀）

〈員数〉16.5㎡

墓（1カ所）環石径9cm、盛り土径91cm、高さ30cm

東山大雄寺墓地に赤田家の墳墓がある。東西3.6m、南北5.5mの墓域内に石塔3、小墳4が配置されているが、臥牛墳は入口に最も近く、中央に位置し、右に先霊、左に誠軒（嫡孫）、後ろに章斎（嫡子）の墳墓がある。各墳とも同大で、環石を設け、中に盛り土がしてある。誠軒の遺骸は大正15年小糸坂からここに移された。章斎墳の右横に修墓の際建てられた標碑がある。

臥牛は名元義、通称を新助と呼んだ。臥牛はその号である。幼少より学問に志し、長じて江村北海の門に入り、最も物徂徠<sup>ぶつそらい</sup>の学風を好んだ。代々一之町に住み醸酒を業としたが、文化2年（1805）官許を得て邸内に家塾静修館を開き、初めて積奠<sup>せきてん</sup>を行なった。文政5年（1822）7月22日没、享年78、法名浄彰。

「臥牛集初編」10巻は、文政10年津野廷賢により刊行された。

### 参考文献

『高山の文化財』177～178頁 高山市教育委員会発行 平成6年3月31日